

## 2017 年度 支部長会・各種委員会活動報告

・ 支部長会	1 頁
・ 将来構想委員会	2 頁
・ 財務委員会	3 頁
・ 企画・広報委員会	4 頁
・ 倫理審査委員会	5 頁
・ 利益相反委員会	6 頁
・ 編集委員会	7～9 頁
・ 全国集計委員会	10 頁
・ 認定制度委員会	11 頁
・ 認定医・専門医制度委員会	12～13 頁
・ 教育・研修委員会	14～15 頁
・ 学会賞受賞者選考委員会	16 頁
・ 胃がん検診精度管理委員会	17 頁
・ 大腸がん検診精度管理委員会	18～19 頁
・ 検診従事者委員会	20～21 頁
・ 胃がん検診専門技師認定委員会	22 頁
・ 超音波検診委員会	23 頁

## 支部長会

担当理事：渋谷大助 理事長

支部長：北海道 松浦邦彦

東海北陸 乾 和郎

九州 北川晋二

東北 島田剛延

近畿 平井都始子

関東甲信越 入口陽介

中国四国 吉原正治

委員会開催：2回

1. 7支部における2017年度支部事業報告・会計報告ならびに2018年度事業計画・予算について報告があった。
2. 支部の医師研修会開催について  
卒後教育委員会よりプログラムはカリキュラムに沿った本支部で連動した研修会を提供することが必要であるため、所要時間は3時間程度とすることが要望され、検討することになった。
3. 支部内部留保について  
一般社団法人移行後は内閣府の管轄となり、公益目的支出計画も終了したので、内部留保30%という文科省の指導はなくなった。
4. 支部会則について  
支部の会則は本部の運営規則に基づいて作成するため、それぞれ、支部会則を見直し統一した。
5. 支部長交代について  
2018年4月1日より九州支部支部長として松浦隆志先生が就任することとなった。

## 将来構想委員会

担当理事：渋谷大助理事長

委員：一瀬雅夫、乾 和郎、斎藤 博、森山光彦、吉原正治

委員会開催：2回

1. 日本消化器内視鏡学会が専門医評価機構における内科学会のサブスペシャルに認められたのを契機に本学会においても、技術認定として新専門医制度への対応について検討した。
2. 一次読影を担う技師の認定制度について  
学会の認定技師にe-ラーニングなどを活用し読影に関する教育を進め、一次読影を担ってもらう方向で制度化について検討した。
3. 全衛連の胃X線検診の施設評価について  
全衛連から胃X線検診の精度管理事業を学会で担えないか、と提案されたが今後慎重に検討する。

## 財務委員会

担当理事：乾 和郎

委員：永尾重昭、森山光彦、吉原正治

委員会開催：2回

1. 2016年度財務諸表の確認と審議
2. 2018年度予算

本部の予算、7支部予算の審議

### 1) 本部

○事業活動収入について

- ・正会員は、賛助会員数は減少気味だが、一般会員（A/B）は増加し、昨年度とほぼ同額の約6千万円を見込んだ。
- ・認定手数料は2018年度より開始する認定医受験料により増収を見込んだ。
- ・学術集会収入では、協賛金収入が減少し、寄付金、広告収入の増加を見込んだ。

以上の結果、事業活動収入は9千600万円となり、約600万円の増収を見込んだ。

○事業活動支出について

- ・旅費交通費は委員会の統合により約80万円の減少を見込んだ。
- ・広報費は98万円の減少を見込んでいる。
- ・総会では、会場費は約120万円の減少、認定医試験実施により約50万円の増加を見込んだ。
- ・給与手当は職員1名増員のため、支出増を見込んだ。

以上の結果、事業活動支出は約1億100万円となり、約200万円の増収を見込んだ。

### 2) 支部

○収入、支出について

- ・支部により当期一般正味財産増減額や正味財産期末残高に差が見られ余裕度は違うが実情に沿った事業活動を行っていれば学会活動として問題ない。

3. 全体の収支予算について

法人全体では、損益ベースで正味財産期末残高は約1億4千万となり前年度比で約900万円の減少を見込んだ。

4. 2017年度総会収支決算について

総会会長からの収支決算書の報告があった。

5. 旅費規程について検討することになった。

## 企画・広報委員会

担当理事：吉原正治

委員：石川 勉、井上和彦、小野寺博義、金城福則、草野 健、松田一夫、渡 二郎

委員会開催：1回

### 1. ホームページ運用状況報告

- ・学会ホームページのカテゴリー詳細毎の年間アクセスについて解析を行ったところ、認定技師や総会などのイベントの際にアクセスが集中している。
- ・今後、一般市民向けQ&Aについては、順次更新を行う方向で検討する。
- ・総会時の市民公開講座のビデオ配信の提案があった。

### 2. 学会の企画運営に関する事項について

委員より以下の意見があった。

- ・一般演題優秀賞の選定方法は会長に一任されているが、査読の際にある程度絞り込み、当日プレナリーセッションのような発表で審査を行ってはどうか。
- ・倫理審査に関する演題募集については今後、倫理審査委員会の設置がない施設の対応について検討が必要だ。
- ・医師研修会などはカリキュラムに則ったものを提供すべきである。

## 倫理審査委員会

担当理事：乾 和郎

委員：岡 政志、小林 隆、川口 淳、齋藤洋子、阪上順一

外部委員：若林昭子、亘理 茂

委員会開催：2回（うち1回持ち回り）

### 1. 委員会設立について

JDDW2018 応募演題からすべての応募演題は、各施設等における倫理審査委員会の審査に基づく施設長の許可を得た上で、研究が行われていることが必要になった。自施設に倫理審査委員会を持たない施設への救済措置として、本委員会が設立された。

### 2. 倫理指針の対応について

2018年2月より単施設による研究で、介入・侵襲なし（軽微な侵襲ありは含む）、かつ、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」適用外の研究に限って、有料審査 [1件 20,000円（税込）] を行うことになった。

### 3. 倫理審査委員会規則、審査手順書について

委員会規則、迅速審査該当研究審査手順書を制定した（施行日：2017年12月22日）。

### 4. 倫理指針に関する講演会について

会員に教育と周知を目的として第57回総会（新潟）に倫理指針に関する講演会の企画を成澤会長に依頼した。

## 利益相反委員会

担当理事：島田剛延

副委員長：濱島ちさと

顧問：渡邊能行

委員：上野善一、西野義之

委員会開催：開催なし

### 1. COI 自己申告書について

1) 指針に則り、役員（理事・監事）、幹事、代議員、学術集会会長、各種委員会委員長及び委員に申告書の提出を依頼した。

2) 支部事業（地方会、セミナー、講演会等）について COI 自己申告が必要であるため、関係者への周知を依頼した。

## 編集委員会

担当理事：西田 博

委員：石川 勉、伊藤高広、岡 政志、岡庭信司、金岡 繁、鎌田智有、阪上順一、鈴木康元、長浜隆司、野崎良一、  
平井都始子、間部克裕、安田 貢

委員会開催：6回（うち5回持ち回り）

### 1. 原稿依頼について

執筆依頼を下記演者に行った。

- ・総会、大会：主題の演題。一般演題（デジタルポスターセッション）は、座長推薦の演題。
- ・地方会：主題の演題。

### 2. 投稿・査読状況について

#### (1) 年度別投稿数の推移

年度	総投稿数	会長講演	総説	原著	経験	症例報告	この症例に学ぶ	Letter to the Editor
2015	42	2	1	29	3	3	4	0
	投：14 依：28	投：0 依：2	投：0 依：1	投：10 依：19	投：1 依：2	投：3 依：0	投：0 依：4	
2016	37	2	2	24	1	7	0	1
	投：15 依：22	投：0 依：2	投：1 依：1	投：7 依：17	投：0 依：1	投：6 依：1		投：1 依：0
2017	42	2	0	35	4	1	0	0
	投：14 依：28	投：0 依：2		投：13 依：22	投：1 依：3	投：0 依：1		

#### (2) 2017年度論文種類別新規投稿数および採択論文数

（投稿期間 2017. 4. 1～2018. 3. 31、採択率 2018. 5. 18 現在）

注）審査中の論文があるので採択数と採択率は高まる可能性がある。

種別	新規投稿数	2017年度採択・不採択論文数 内訳		
		採択数	不採択数	採択率
会長講演	2	2	0	100%
総説	0	0	0	0%
原著	34	21	0	62%
経験	5	1	0	20%
症例報告	1	1	0	100%
この症例に学ぶ	0	0	0	0%
Letter to the Editor	0	0	0	0%
計	42	25	0	59.50%

#### (3) 論文受付から初回審査結果までの平均査読日数

（2017. 4. 1～2018. 3. 31）

平均査読日数
35日

### 3. 掲載内容について

- 1) 論文内容の最終確認は、持ち回り委員会に於いて行った。
- 2) 主な掲載は下記のとおりである。
  - ・ 55 巻 3 号は巻末に「第 56 回総会プログラム・抄録集」を掲載した。
  - ・ 55 巻 4 号は第 54 回大会の会長講演を掲載した。
  - ・ 55 巻 suppl 号は「第 55 回大会 (JDDW2017) プログラム・抄録集」を掲載した。
  - ・ 56 巻 2 号は第 56 回総会の会長講演を掲載した。

### 4. 機関誌ペーパーレスについて

機関誌電子化についてはそれぞれのメリット・デメリットに加え、一般会員 A、B のことも考慮しながら実施に向けた検討を継続していく。

### 5. 投稿規定について

本学会誌への投稿に際しても予め倫理審査委員会での審査を受けていただくよう、下記の 6 点を追加することになった。2018 年 6 月投稿受付論文より適用とするが周知期間が必要なため、56 巻 1 号、56 巻 2 号会告に掲載した。

- 1) 本誌に投稿する際は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年2月28日一部改変）の遵守に関してカバーレターに明確に記載すること。もし遵守しない、またはその必要がない場合はその理由もカバーレターに明確に記載すること。
- 2) 論文の内容は、外科関連学会協議会「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」を遵守し、その旨をカバーレターに明確に記載すること。
- 3) 論文の内容が臨床研究の場合は、被験者全員からのインフォームド・コンセントが得られていること、および著者が所属する施設等の倫理審査委員会で研究が承認されていることをカバーレターと論文中に明記すること。
- 4) 自施設等で倫理審査を受けた場合、本学会倫理審査委員会が定める倫理指针对応フローに従って倫理審査を受けたことをカバーレターに記載すること。
- 5) 論文内容が動物実験である場合は、施設内ガイドラインに準拠していることを論文中に明記すること。
- 6) 未承認の薬剤の投与や未承認の診断技術等を用いる場合は、著者が所属する施設等の倫理審査委員会で承認が得られていること、またその旨を論文中に明記すること。

### 6. 用語集改訂について

#### 1) 掲載案

- ・ ひらがな（50音順）、日本語、英語とし、同義語、類似語、反対語が必要な用語は付ける。
- ・ 超音波は検査法別でなく臓器別とする。
- ・ 英語でも検索できるようアルファベット順でも掲載する。

#### 2) 精度管理・疫学

精度管理・疫学は本学会独特のものであるので解説を残す方向進めてきたが、疫学会のホームページなどで検索が可能のため、他の分野と同様に解説を削除することになった。

### 7. 機関誌掲載論文数

掲載論文数 29 編（内訳：投稿 17、依頼 12）

8. 機関誌掲載内訳

号	第 55 卷 3 号～第 56 卷 2 号 (平成 29 年度)	第 54 卷 3 号～第 55 卷 2 号 (平成 28 年度)	増 減 △
発刊号数	6 号+suppl	6 号+suppl	0 号
総頁数	740 頁	809 頁	△69 頁
総説	0 編	2 編	△2 編
原著	21 編	16 編	5 編
経験	1 編	0 編	1 編
症例報告	5 編	4 編	1 編
この症例に学ぶ	0 編	1 編	△1 編
Letter to the Editor	0 編	1 編	△1 編
会長講演	2 編	2 編	0 編
特別講演	0 編	0 編	0 編
地方会抄録	6 編	7 編	△1 編
委員会報告	0 編	4 編	△4 編
附置研究会報告	0 編	1 編	△1 編
総会プログラム・抄録集	107 頁	127 頁	△20 頁
大会プログラム・抄録集	258 頁	332 頁	△74 頁

## 全国集計委員会

担 当 理 事 : 水口昌伸

顧 問 : 北川晋二

委 員 : 入口陽介、大黒隆司、小川眞広、大泉晴史、中島滋美、丹羽康正、藤谷幹浩、松浦隆志

幹 事 : 宮川国久

委員会開催 : 3回 (うち持ち回り2回)

### 1. 全国集計 Web 化スケジュールについて

- ・ 2016 年 10 月より委託業者選定から始まり、内容をまとめ、2017 年にプログラムテストを行った。
- ・ 2017 年 6 月 1 日に委員長・委託業者・事務局で、全国集計調査オンライン入力画面のデモ版の確認とスケジュール見直しを行った。
- ・ 6 月 13 日～19 日までの期間、10 施設に対しプログラム入力テストの依頼をし、画面の仕様などについて意見を提出してもらった。
- ・ 6 月 22 日の全国集計委員会にて、委託業者にプログラムのデモ版のプレゼンを行ってもらった。
- ・ 7 月 7 日に委員長・委託業者・事務局で、プログラムのデモ版の意見や修正点をまとめるなどの打ち合せを行った。
- ・ 8 月より 11 月にかけて 2015 年度 (平成 27 年) の全国集計調査を開始し、12 月までに集計を完了させたのち、委員会に諮りたい。
- ・ 2018 年 3 月に協力施設に対し、感謝状を発送する。
- ・ 2015 年度 (平成 27 年) 全国集計報告を第 57 回新潟総会にて行う。

### 2. 便潜血カットオフ値について

- ・ 従来、ng/mL ということで、便潜血検査カットオフ値は各社で設定していた。しかし、液量や便量は会社や地域によっても差が出てくるため、 $\mu\text{g/g}$  便の単位に換算したカットオフ値のエクセル表を作成し、全国集計オンラインシステム上から、エクセル表をダウンロードできるよう手配した。

## 認定委員会

担当理事：一瀬雅夫

副委員長：川村 洋

委員：杉山和久、戸堀文雄、中島滋美、日山 亨、平賀聖久、藤谷幹浩

委員会開催：2回（うち1回持ち回り）

### 1. 2017年度新規認定医審査

支部審査委員会の結果を踏まえて認定基準を基に審査を行い、下記のとおり承認した。

北海道支部 2名 東北支部 2名 関東甲信越支部 13名 東海北陸支部 3名

近畿支部 3名 中国四国支部 1名 九州支部 4名 計 28名

### 2. 2017年度新規指導医・指導施設審査

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 27名 指導施設 3施設

### 3. 2017年度認定医更新審査

基準に基づいて認定更新審査した結果、下記のとおり承認した。

認定更新 152名 終身 27名 計 179名

### 4. 2017年度指導医・指導施設更新審査

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 68名 指導施設 30施設

### 5. 2017年度指導施設状況確認

132施設における認定医・指導医の在籍状況を行ったところ121施設は要件が満たされていた。要件が満たされず保留となった施設は10施設、辞退が1施設であった。

## 認定医・専門医委員会

担当理事：松田一夫

顧問：渋谷大助、一瀬雅夫

委員：乾 和郎、井上和彦、石川 勉、入口陽介、大西洋英、岡 政志、加藤勝章、金岡 繁、河合 隆、齋藤洋子、  
趙 栄済、西田 博、藤谷幹浩

委員会開催：4回（うち2回持ち回り）

### 1. 委員会設立について

本委員会は専門医制度委員会と試験委員会を統合し「認定医・専門医制度委員会」として設立された。

### 2. 新制度について

○消化器がん検診総合認定医制度規則（案）を策定した。

- ・認定基準は対策型検診の胃がんと大腸がんのこれまでに経験された実績数を問う。
- ・単位表（新規、更新）に従い40単位以上の取得を必要とする。なお、学会参加、医師研修会などを通して基本的な知識を習得してもらいたいため実績は求めない。
- ・移行措置（すでに認定医を取得されている先生）の受験資格は1回以上の更新を必要とする。

○55巻6号、56巻1号、56巻2号会告に「新しい認定医制度に向けて」を掲載した。

○第57回総会時の代議員会で承認後、56巻4号会告ならびにホームページで消化器がん検診総合認定医制度の発足を告知した。

### 3. （区分毎の）認定医制度規程について

- ・2018年6月30日までの入会者においては（区分毎）認定医制度の基準で5年後の2022年度申請（6月30日締切）まで申請可能とし、2018年7月以降の入会者は、新制度下での申請とする。
- ・終身認定医の今後の取り扱いについて検討を行った。

### 4. 第1回総合認定医試験について

試験実施概要について検討した。

1) 日時：2019年1月20日（日）

2) 会場：砂防会館別館シェーンバッハ

3) 実施要項

- ・出題分野：がん検診全般の有効性評価、胃、大腸、肝胆膵（4分野）
- ・講義：各分野について、それぞれ20分間の講義に続いて15分間の試験（各10題、文章題および典型的な画像を出題）を行う。
- ・試験方法：マークシート

- ・ 出題形式：基本はAタイプ（単純択一形式）、X 2タイプ（多真偽形式）

- ・ 出題数：40 題（10 題×4 分野）

#### 4) 作問

- ・ 作問委員の選出

- ・ ブラッシュアップ委員の選出

#### 5. 大腸CTに係る認定制度について

理事会から大腸CT認定制度の位置づけについて検討してもらいたい、と要請を受けたが、本委員会は総合認定医制度と試験のための委員会であり、新たなる認定制度について議論を行うのは適切ではないため、再度、理事会で検討を行ってもらうことになった。

## 教育・研修委員会

担当理事：井上和彦

副委員長：入口陽介

顧問：渋谷大助

委員：小川眞広、謝花典子、西野善一、丹羽康正、日山 亨、間部克裕、安田 貢

委員会開催：2回（うち持ち回り1回）

### 1. 委員会名改称

卒後教育委員会から教育・研修委員会に改称された。

### 2. 消化器がん検診総合認定医研修カリキュラムについて

前委員会（卒後教育委員会）が作成されたカリキュラムを引き継ぎ、来年度完成を目指し作業を行った。

### 3. 2017年度医師認定研修会と胃X線読影講習会について

第56回総会（つくば）時に下記のとおり開催された、

#### ・第32回医師研修会

開催日時：2017年6月24日（土）9：00～12：00

参加者：81名

プログラム

司会：一瀬雅夫（帝京大学医学部附属病院 新宿クリニック・がん検診センター）

総論（60分） 齋藤 博（国立がん研究センター）

胃（30分） 成澤林太郎（新潟県立がんセンター新潟病院内科）

司会：丹羽康正（愛知県がんセンター中央病院）

大腸（30分） 松田一夫（福井県健康管理協会県民健康センター）

肝胆膵（30分） 小川眞広（日本大学病院 消化器肝臓内科）

#### ・第6回胃X線読影講習会

開催日時：2017年6月24日（土）13：30～17：00

参加者：80名

プログラム

講義1：背景胃粘膜診断（40分） 中島滋美（JCHO 滋賀病院）

講義2：胃癌のX線診断（40分） 中原慶太（佐賀県健康づくり財団）

読影演習オリエンテーション（30分） 渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習（60分） 渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習解説（20分） 渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

4. 2018年度医師認定研修会と胃X線読影講習会プログラムについて

第57回総会（新潟）時プログラムを企画した。

・第33回医師認定研修会

開催日時：2017年6月9日（土）9：00～12：00

プログラム

司会：河合 隆（東京医科大学病院 内視鏡センター）

総論（60分） 中山富雄（大阪国際がんセンター）

胃（30分） 入口陽介（東京都がん検診センター 消化器内科）

司会：鈴木康元（松島病院大腸肛門病センター 松島クリニック）

大腸（30分） 西田 博（アムスニューオータニクリニック）

肝胆膵（30分） 森山光彦（日本大学 消化器肝臓内科）

・第7回胃X線読影講習会

例年通り、胃がん検診精度管理委員会（胃X線読影講習会プログラム実施委員会）の企画で実施する。

5. 卒後教育の今後のあり方について

1) 内視鏡講習会について

医師認定研修会プログラムに内視鏡検診の講義が入っているが単独の内視鏡講習会を将来的に実施する必要がある。

2) 支部医師研修会について

- ・支部独自に実施されているため支部長会で3時間を目安とすることを依頼した。
- ・カリキュラムに沿った講習内容を本部、支部で統一する。
- ・技師の参加等、支部独自の現状は尊重する。

3) e-learning について

e-learning 導入を視野に入れながら卒後教育の在り方を検討していく。

6. JDDW 教育講演に関する連絡協議会報告

消化器がん検診に関するテーマを数年に1度は入れて欲しいと要望した。

## 学会賞受賞者選考委員会

担当理事：濱島ちさと

委員：小野寺博義、謝花典子、西田 博、森山光彦

委員会開催：1回

### 1. 学術奨励賞選考について

日本消化器がん検診学会雑誌の掲載論文の中から優れた論文を委員より推薦を受け、選考を行い理事会に答申した。

《受賞者と対象論文》

学術奨励賞 1名

馬嶋健一郎氏（亀田メディカルセンター健康管理科）

対象論文：大腸 SM 以深癌に対する、免疫的便潜血検査の感度に影響する因子の検討（54（3））

### 2. 有賀記念学会賞及び国際研究助成及び国際学会参加支援について

本年度は対象者なし

## 胃がん検診精度管理委員会

担当理事：松浦隆志

副委員長：加藤勝章

顧問：渋谷大助

委員：安保智典、伊藤高広、小田丈二、鎌田智有、平川克哉、水口昌伸、吉村理江、吉田諭史

委員会開催：1回

### 1. 偶発症調査について

- ・全国集計と偶発症アンケート調査の効率化を図るために平成 27 年度調査よりオンライン化した。
- ・内視鏡検診の偶発症は市町村から委託されている場合、各医療機関が報告するのではなく取りまとめている施設（医師会、行政、運営委員会）に行ってもらおう。

### 2. 第 6 回胃 X 線読影講習会について

第 56 回総会（つくば）時に下記のとおり開催された、

開催日時：2017 年 6 月 24 日（土）13：30～17：00

参加者：80 名

プログラム

講義 1：ピロリ菌感染を考慮した背景胃粘膜診断（40 分）	中島滋美（JCHO 滋賀病院）
講義 2：胃癌の X 線診断について（40 分）	吉田諭史（慶應義塾大学病院 予防医療センター）
読影演習オリエンテーション（30 分）	渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）
読影演習（60 分）	渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）
読影演習解説（20 分）	渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

### 3. 対策型検診のために胃内視鏡検診マニュアル発刊について

「対策型検診のために胃内視鏡検診マニュアル 2015 年版」に事例・用語解説などを追加し、2017 年 2 月に「対策型検診のために胃内視鏡検診マニュアル発刊」が南江堂より市販出版された。

### 4. 胃 X 線検診のための読影判定区分アトラス発刊について

委員会報告「胃 X 線検診のための読影判定区分」（本学会誌 54 巻 1 号）に新たに豊富な画像、カテゴリーごとの症例と解説を加え、「胃 X 線検診のための読影判定区分アトラス」が 5 月に南江堂より出版された。

### 5. 内視鏡検診の精度管理について

胃がん内視鏡検診の精度管理は本委員会が担うことになった。内視鏡検診講習会実施について検討していく。

## 大腸がん検診精度管理委員会

担当理事：斎藤 博

顧問：樋渡信夫

委員：金岡 繁、鈴木康元、須田健夫、永田浩一、西田 博、野崎良一、松浦邦彦、松田一夫、松田尚久、山口和也

委員会開催：1回

### 1. 大腸 CT 検査の実態全国調査の結果報告について

- ・学会ベースで調査が行われ、論文を European Radiology で報告した。
- ・調査への回答率は非常に高く、全国 431 施設（回答率約 67%）から 14 万 7 千件超の検査の登録があった。偶発症として、死亡例はないものの、穿孔例は 21 例（0.014%）であった。一見すると内視鏡検査の穿孔率と同等のようにも見えるが、大腸 CT ではそのほとんどは保存的治療が可能なマイクロパーフォレーションであった。また、検査目的別（FOBT 陽性後の検査、術前検査）での検討では、有意に術前検査目的で行った場合の、穿孔例が多かった。
- ・今後は各検査施設でこのような偶発症に関するデータを把握できるように、European Radiology の承認後、第 2 出版物であることを明記した上で、本学会誌や学会ホームページでの報告することを理事会で提案する。

### 2. CT コロノグラフィー（CTC）の認定事業について

新しく立ち上げられた日本消化管 Virtual Reality 学会で認定医精度を作る可能性があるが、日本消化管 Virtual Reality 学会は標準化を目指していない。標準化を目指す本学会と違う内容の認定医が拡散されるリスクがある。早い時期に日本消化管 Virtual Reality 学会と協議を進めながら CTC の認定事業を進める必要がある。

### 3. 大腸内視鏡検診の精度管理要件の抽出について

- ・大腸内視鏡検診は、わが国でも導入される可能性は十分にあり、事前に精度管理要件の抽出が必要ということで検討を進める。
- ・第 53 回（2015）の総会附置研では、10 項目の精度管理要件について議論を行い、さらに昨年の JDDW のパネルディスカッションでは、6 項目について検討を行った。これらの検討をもとに報告書の作成を進めている。
- ・今後の課題として、現在挙げられている精度管理項目の多くが、腺腫発見率（ADR）を基にしている事を踏まえると、現在の手法のように、精度管理項目をそれぞれ設定する方法とは別に、目標とする ADR について調査し、目標を設定してという考え方も必要ではないか。
- ・日本内視鏡学会で「大腸がん内視鏡検診等サーベイランスガイド委員会」が立ち上がる予定である。精度管理要件については、本委員会と一緒に議論を進めていく事も検討されるだろう。

### 4. 大腸がん検診附置研究会（第 56 回総会：つくば）

当番世話人：野崎良一（大腸降雨門病センター高野病院 消化器内科）

永田浩一（国立がん研究センター 社会と健康研究センター 検診開発研究部）

「大腸 CT 検査の標準化に必要な認定医師や認定技師の要件について」をテーマに議論がされた。

5. 大腸がん検診附置研究会（第 57 回総会：新潟）

当番世話人：西田 博（アムスニューオータニクリニック）

鈴木康元（松島病院大腸肛門病センター 松島クリニック）

テーマ：精検受診率向上の阻害因子と対策

## 検診従事者委員会

(委員構成：支部推薦の認定医、認定技師、保健師)

担 当 理 事：松浦邦彦

委 員：萩原 武・小牟田学・小野寺紀代美（北海道） 加藤勝章・金子貴安・吾妻明子（東北）  
小田丈二・見本真一・小川敬子（関東甲信越） 丹羽康正・西川 孝（東海北陸）  
伊藤高広・中川泰二（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国） 満崎克彦・石本裕二・池田晶子（九州）

委員会開催：4回（うち持ち回り2回）

### 1. 2018年度総会時の放射線フォーラムの企画について

#### 1) プログラム

・シンポジウム「胃X線検診のための読影判定区分（カテゴリー分類）の運用－放射線技師の役割－」

・基調講演、症例検討会

2) 司会は、九州支部の満崎克彦委員・石本裕二委員が推薦された。

### 2. 第2回胃がん検診専門技師研修会について

2017年10月7日（土）9：45～16：05 神奈川県横浜市のはまぎんホールヴィアマールにて開催された。参加者人数は239名であった。

#### プログラム

・講 義 I 「認定技師に求められる透視観察術と追加撮影－僅かな異常所見を感じるためには－」

講師：木村俊雄 司会：金子貴安

・教育講演 I 「背景粘膜を考慮した胃がんX線診断」

講師：伊藤高広 司会：見本真一

・教育講演 II 「胃がん検診専門技師に必要な内視鏡所見の知識－内視鏡所見とX線所見の対比－」

講師：安田 貢 司会：大久保誠

・ランチョンセミナー「*H. pylori* 疫学から近年の各種検査法の使い分け」

講師：高野浩一 司会：宮田和則

・基 調 講 演「胃がん検診専門技師に必要な病理所見の知識」

講師：九嶋亮治 司会：小牟田学

・症例検討会

講師：中原慶太 座長：石本裕二

### 3. 第3回胃がん検診専門技師研修会について

下記要綱にて第3回胃がん検診専門技師研修会を開催することになった。

日 時：2018年10月6日（土）9：45～16：05

場 所：日経ホール

対 象 者：日本消化器がん検診学会 胃がん検診専門技師認定資格保有者および更新保留中の者

受 講 料：3,000円

定 員：400名

申 込 期 間：2018年6月11日（月）～7月31日（火）

申 込 方 法：学会ホームページにてオンライン事前申込

付 与 単 位：胃がん検診専門技師認定更新6単位

実行委員長：松浦邦彦（日本消化器がん検診学会 検診従事者委員会委員長）

代表世話人：金子貴安（東北）・見本真一（関東甲信越）

世 話 人：加藤勝章（医師・東北）小牟田学（北海道）西川 孝（東海北陸）中川泰二（近畿）

大久保誠（中国四国）石本裕二（九州）

会計監査：伊藤高広（医師・近畿）

4. 近畿地区委員の交代について

- ・山本兼右氏の退任により、中川泰二氏が推薦された。理事会で承認され、6月より就任とした。

## 胃がん検診専門技師認定委員会

(委員構成：保健師を除く検診従事者委員が兼務)

担当理事：松浦邦彦

委員：萩原 武・小牟田学（北海道） 加藤勝章・金子貴安（東北）

小田丈二・見本真一（関東甲信越） 吉村 平・川地俊明（東海北陸）

伊藤高広・山本兼右（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国）

満崎克彦・石本裕司（九州）

委員会開催：1回（持ち回り）

### 1. 2017年度認定審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

申請者 209名（合格者207名，不合格者2名）

なお，不合格者2名は，審査料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 207名に認定証を交付した。

### 2. 2017年度認定技師更新審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

更新該当者 519名（合格者429名，不合格者2名，認定保留75名，認定取消70名）

なお，不合格者2名は，更新料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 更新合格者429名に認定証を交付した。

### 3. 更新単位「その他主催」研究会・研修会

1) 以下8つの研究会が承認された。

(1) 「東北消化管造影懇話会」（東北）

(2) 「仙台胃X線勉強会」（東北）

(3) 「東京 Jr. 胃会」（関東甲信越）

(4) 「東静消化管研修会」（東海北陸）

(5) 「奈良県消化管撮影技術研究会」（近畿）

(6) 「西日本消化器がん検診学会合同研究会」（近畿）

(7) 「黒潮会」（九州）

(8) 「NP0 日本消化器がん検精度管理評価機構 九州支部学術研修会」（九州）

2) 以下1つの名称変更が承認された。

(旧) 「浜松胃健診やらま胃会」 → (新) 「浜松やらま胃会」（東海北陸）

## 超音波検診委員会

担当理事：平井都始子

顧問：田中幸子

委員：乾 和郎、岡庭信司、小川眞広、小島正久、中島美智子、水間美宏、三原修一

各支部委員：久居弘幸、千葉祐子（北海道） 小野寺博義、佐藤 務（東北）

若杉 聡、鳥海 修（関東甲信越） 廣岡芳樹、西川 徹（東海北陸）

西村重彦、牧島展海（近畿） 池田 敏、渡邊敏充（中国四国）

西 潤子、田中信次（九州）

委員会開催：4回（うち持ち回り3回）

### 1. 全国集計の問い合わせについて

正しい調査をしていただくことを目的に「全国集計における腹部超音波検診マニュアルQ&A」を作成した。

平成27年度全国集計よりWEB調査となるのでよくある質問としてWEBサイトに掲載した。

### 2. 腹部超音波検診判定マニュアルについて

#### 1) 別冊増刷

「地域がん登録 → 全国がん登録」の修正、最終ページにQ&Aの追加して、別冊を3,000部増刷し、各支部の超音波研修会等で配布した。

#### 2) 腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループ立ち上げについて

2014年発刊から5年が経過した。5年を目処に改訂が必要なことから2019年度を目標に改訂版を作成することになり腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループを設立することになった。委員長に小川委員が推薦された。メンバーは、日本超音波医学会、日本人間ドック学会と協力して決定する。

### 3. 第57回総会（新潟）プログラムについて

次年度のワークショップ、超音波フォーラムなどを企画した。

#### ○ワークショップ

「ここが変だよ 検診マニュアルー現場の意見よりー」

司会：岡庭信司（飯田市立病院 消化器内科）

富山宏美（新潟県労働衛生医学協会 新津成人病検診センター）

#### ○超音波フォーラム

・教育講演「膵癌のCT, MRI 診断」

蒲田敏文（金沢大学付属病院 放射線科学）

司会：関根厚雄（新潟県労働衛生医学協会 集団検診センター）

・症例検討会

「カテゴリー分類と精密検査結果が不一致だった症例を見直す」

司会：西村重彦（住友病院 外科）

大竹宏治（日本赤十字社 熊本健康管理センター）

・ライブデモンストレーション

「明日から活用できる超音波走査法のコツ」

司会：千葉祐子（北海道労働保健管理協会）

西川 徹（藤田保健衛生大学病院 臨床検査部超音波センター）